



修業式

116期生219名はこの半年間、
厳しい訓練にも耐え、
無事に修業を迎えることができた。

小隊で私が1番！ 今月のテーマ 『我らのリーダー』

Q①長としてやり遂げたこと
Q②後悔
Q③修業して…

総代
高谷 弥
(岸和田市消防本部)



①全員と話すことで、信頼関係を構築できた。
②全力で走り切った。後悔はない！③総代という非常に貴重な経験ができた。半年間サポートいただいた教官方や同期生に心から感謝している。同期生は宝物だ。

第1小隊長
濱本 一慶
(大阪南消防局)



①小隊スローガンである「全員主役」をやり遂げた。当初は私から個別に指示をすることが多かったが、その頻度も次第に減り「全員主役」の小隊となった。
②もっと早い段階で小隊をまとめる方法を色々と考え、試してみるべきだった。
③第1小隊の小隊長をすることができて本当に良かった。また、この半年間で様々な経験を積むことができただけでなく、人としても成長することができた。

第2小隊長
川畑 輝規
(池田市消防本部)



①219名全員が無事に修業できたこと。
③半年間、全力で頑張った。引き続き、配属先でも頑張る！

第3小隊長
小紫 大輝
(枚方寝屋川消防組合消防本部)



①凡事徹底を心掛けた行動
②教官方からご指摘を受け気付くことが幾度もあった。自分で気付き対応できれば、より良かったと思う。
③「肩の荷が下りた。」という表現が最も当てはまる。また、同期生と会えなくなってしまうことを寂しく思う。

第4小隊長
岡田 尚之
(岸和田市消防本部)



①素直で団結力のある小隊を作ることができた。
②同じ小隊でありながら会話をする機会があまり持てなかった隊員がいた。③やり切ったという充実感が大きい。大勢の人前に立ち、導くという経験は、今後の消防人生において必ず役に立つと自負している。



11月号で紹介した『救急ラリィ』は、第2小隊が小隊優勝を果たした。
全34班のうち、最優秀賞に輝いたのも同じ第2小隊の第14班だった。



一人では絶対にできないこと...
しかし、そんな課題難題にも一つ一つ丁寧に向き合い、見事な活動を見せてくれた。



土砂埋没救出訓練を行いました！

阿倍野消防署
大規模災害救助隊

@生コン工場のサイロ施設

令和6年9月22日（日）・29日（日）の両日に渡り、株式会社八光様（協力のもと、大正区にある同社なみや工場（図1）において、生コンクリート工場のサイロ施設での事故を想定した救出訓練を実施しました。



図1 なみはや工場

サイロとは？生コンとは？

サイロとは、砂などを袋に入らず原材料のまま保存する、円筒形の施設のことを言います。また、建設現場で使用する半生状のコンクリートは、通称「生コン」と呼ばれており、大阪市内には、生コンを作るための砂や砂利が保存されているサイロ施設が多数存在しています。

なぜ、サイロ施設で生き埋め事故が起こるのか

サイロ内での生き埋め事故には、サイロの側壁に固着した、排出されない砂や砂利（以下「デッドストック」という。）を取り除く作業中に、固着していたデッドストックが崩れ落ちて埋没する場合（図2）や、自動運転中のサイロ内に不用意に進入した

ため、サイロ下部の扉（以下「引き出しゲート」という。）が自動運転で開放され、吸い込まれて埋没する場合（図3）などがあります。どちらの場合も、一度砂に埋まると下へ吸い込まれる強い力が働き、自力で抜け出すことはほぼ不可能になります。全国的にみると、このようなサイロ施設での生き埋め事故が、年に数回発生しています。

訓練の想定

今回の訓練は、生コン工場のサイロ内において、工場職員1名がデッドストックを落とす作業中に、何らかの理由で引き出しゲートが開放したため、砂内に身体が埋没し、助けを求めているという想定で行いました。当局の大規模災害救助隊6隊（北、中央、西、大正、城東、阿倍野）が

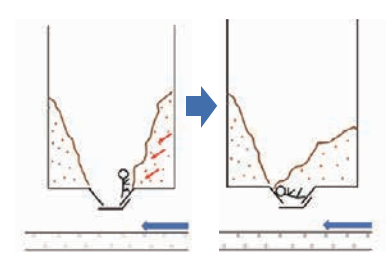


図2 災害パターン1

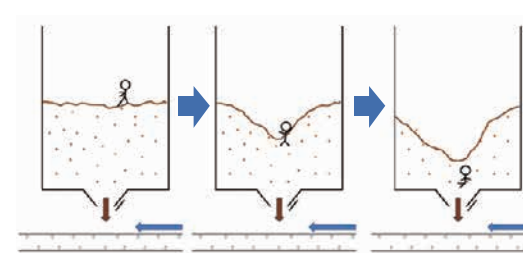


図3 災害パターン2

要救助者を早期に救出することを目標に実施しました。

本訓練で使用したサイロは、直径7mの円筒形で、サイロ内部は既存の隔壁により3つに区画されています。また、要救助者（ダミー人形）がいる区画には約150tの砂が保存されており、要救助者は首の下まで砂に埋まっている状態で、その真下には砂を排出するための引き出しゲートが位置しています。

なお、消防隊による土砂の搬出先は、要救助者が埋まっている区画に隣接する別区画としました。（図4）

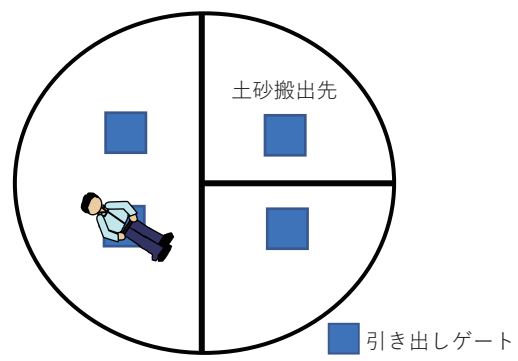


図4 サイロ内の状況

訓練の流れ

訓練は、1部と2部の大規模災害救助隊6隊が3隊ずつに分かれて、午前と午後に計4回実施しました。（図5）

訓練の流れは、各隊ともワイヤー梯子により、およそ5m下へ自己確保ロープを取り進入し、グラウンドパットを設定し、要救助者の周りを土留め板で囲い、砂を排出するというオーソドックスなものです。各隊により、内掘をする隊と一方掘りをする隊があり、また砂の排出先を別の区画のサイロとする隊と、土留め板で同じ

今後の課題

サイロ内に区画を造り排出する隊とに分かれましたが、総じて掘っても掘っても流れてくる土砂の対応に苦慮しました。

実際のサイロでの訓練は、土圧により土留め板が歪むことや、土砂の排出に長時間を要することなど、普段の訓練では想定していなかった多くの課題が浮き彫りになり、非常に有意義なものとなりました。また、予定時間内（4時間）で要救助者を救出することはできず、サイロからの

救出には、想定以上に時間と人員を多く要することがわかり、早期の救助隊の増強、医師及び土砂吸引車の要請の必要性を強く感じました。今後は、この経験を災害現場に活かせるようさらに訓練を重ねるとともに、今回の訓練のように様々な事業者様にもご協力いただくなどして、より有効性・再現性の高い訓練を実施するなど災害対応能力を強化し、市民の安心、安全を守っていきます。



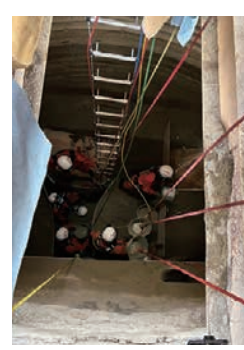
訓練の様子は
こちら↓



要救助者が埋まっている様子



救出ラインの設定と情報収集



サイロ内での救出活動

サイロ外へ救出完了

図5 救出訓練の様子



守口市門真市消防組合消防本部

映像通報システム「Live119®」を用いた救命の連鎖

当消防組合では、令和6年4月1日より映像通報システム「Live119®」を導入しています。本機能は、通報者が音声だけで現場状況を伝えることが困難な場合に、スマートフォンを用いて消防指令センターとLive中継を行うものであり、より正確な状況が把握できるシステムです。

本年8月に当管内において、本機能を用いて救命の連鎖が繋がる事案がありました。

傷病者は30代男性で「夫が痙攣している」と家族からの通報でしたが、呼吸の有無が不明瞭であったため、指令員がLive119®で映像を確認すると、心肺停止状態の疑いがあったため、直ちに口頭指導を行うと同時に、応急手当（胸骨圧迫）のモデル動画をスマートフォンに送信する機能を用いて、映像を活用した口頭指導を行いました。

その結果、救急車で心拍が再開し、約1か月後に社会復帰を果たされたという事例でした。映像伝送による情報共有ツールを用いた救命の連鎖で、今後も一人でも多くの尊い命を救っていきます。



和泉市消防本部

和泉市消防本部・和泉消防署新庁舎開庁

和泉市消防本部では、今月1日に「和泉市消防本部・和泉消防署」が移転し新庁舎が開庁しました。

庁舎の主体となるカラーは、消防職員が固い意志を持ち一枚岩となって災害に立ち向かうという意味を表した岩のグレーを採用しています。

庁舎のシンボルとなる和泉市消防本部のロゴは、消防車の赤色を基調とし、夜になれば光を灯し、和泉市民の安全を照らします。

庁内は、ユニバーサルデザインの理念を取り入れ、障がい者等の利便性に配慮したバリアフリートイレを全ての階に設置し、来庁者が不自由なく使用できる庁舎となっており、子どもたちの思い出に残る現場外とうの試着コーナーや上階から消防車両を見渡せるスポットを設けています。

この移転に伴い、和泉市の主要道路に接することとなり、現場到着時間の短縮や緊急輸送道路に指定されている国道26号へのアクセスも向上し、多岐にわたって諸活動の効率化が期待できます。



高槻市消防本部

府内最大規模の消防団拠点施設が完成

本市では、中消防署富田分署の庁舎建て替えを行うとともに、ポンプ操法訓練をはじめとする各種消防訓練や研修が実施可能な消防団拠点施設を新たに整備し、令和6年10月1日（火）から運用を開始しました。

本施設は、富田分署との合同庁舎で、敷地面積約5,501㎡、延床面積約1,764㎡の鉄筋コンクリート造地上3階建て。消防団の活動拠点となる研修室、情報収集設備室などを備えるほか、屋外にはポンプ操法訓練、放水訓練、水防訓練、規律訓練など各種訓練が実施可能な訓練スペースを設け、その規模は大阪府内最大を誇ります。

また、屋上に非常用発電設備及び受水槽を設置し、災害時に活動拠点として必要な機能を確保するとともに、地下に有効貯留量265㎡の雨水貯留施設と容量40㎡の耐震性貯水槽を設置。さらに、大規模災害時には、受援施設として応援部隊の集結場所としても活用できます。本施設の運用開始により、消防団を中核とした地域防災力のさらなる強化を図ります。



泉大津市消防本部

実車を使用した交通事故救助救出訓練を実施

泉大津市消防本部では、救助技術の向上を目的として、昨年度にエートス共同組合様と「訓練車両貸し出し等に関する協定」を締結しており、このたび、協定に基づき無償提供いただいた車両により救助救出訓練を実施しました。

この訓練では、交通事故による車内への閉じ込めや車両の下敷き事案を想定し、日常の訓練では容易に経験ができない車両の切断や破壊、ドアの開放など、救助隊を中心に消火隊員等が相互に連携を図り、様々な救助用資器材を使用した救出方法を確認しました。

また、訓練を通じて車両の特性や基本構造を理解することで、活動隊員及び要救助者の安全確保につながるものと期待しています。

今後は、日々進化する電気自動車・水素自動車などの次世代自動車に対応するための訓練及び教養（感電及び爆発のリスク）を実施し、当市消防職員のさらなるスキルアップに努めてまいります。

令和6年度 大阪市防火ポスター

今年度は、大阪市内のデザイン系専門学校の学生の方から46点のご応募を頂きました。選考の結果、大阪アニメ・声優&スポーツ専門学校・1年生の田中 碧さんのデザインに決定いたしました。たくさんのご応募ありがとうございました。
今回の作品について田中さんにお話を伺いました。

作者に
インタビュー



Q これまでのご経歴をお聞かせください。
(幼少期はどのようなことに興味があった等)

A 絵を描くことが好きな子どもでした。
友達より上手に描きたく中学は美術部に入りました。
高校時代は、仲の良い友達と茶道部と水泳部のマネージャーをしていました。

Q どうしてデザインの道に進まれましたか。

A 好きな絵を専門的に
もっとやってみたい
と思い、この道に進
みました。

Q 今回の募集はどのように
お知りになりましたか。

A 授業の一環で知りまし
た。

Q 専門学校では
どのようなことを中心に
学ばれていますか。

A デジタルイラストを
中心に学んでいます。

Q 作品を制作するうえで
気を配られたことやポ
イント、作品に込めた
思いなどをお聞かせく
ださい。

A 暗い絵になりすぎない
よう気を配りました。

Q 受賞された時のお気持ち
をお聞かせください。

A 先生からのLINEで受
賞を知り、まずは驚き
でした。その後、嬉し
さと「頑張ってたかっ
たー！」という気持ち
になりました。

Q 作品に込めた防火の思いに
ついてお聞かせください。

A 街中に掲出された時、
少しでも多くの人に
「火の用心しないと」
と思ってもらい、火事
件数の減少に繋がると
いいと思います。

Q 将来の夢について
お聞かせください。

A 具体的には決まってい
ませんが、好きなこと
や得意なことを仕事に
したいと思っています。

Q (先生) 学校からのコメ
ントをお願いします。

A 本校は産官学連携のプロ
ジェクトを通じての学び
を大切にしています。田中
さんも採用が決まってから
画力や精神面でもかなり
成長したように感じまし
た。
このような機会を与えて
くださってありがとうございます。
今後も市民の方々の防火
意識向上に少しでもお役
にたてれば光栄です。

令和6年11月10日(日)、防火
作品入賞者表彰式を行い、消防
局長から表彰状を授与させてい
ただきました。



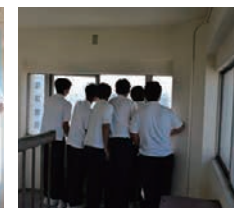
竣工当時の住吉消防署本署新庁舎
(現住之江消防署)



住之江消防署と望楼



署員の皆さん。望楼の最上階で、
大阪・関西万博の横断幕とともに



消防署見学に訪れた
中学生たち

市内3か所に設けられている大阪の街を
見守る高所カメラ。かつてその役目を果たし
ていたのは、市内の各消防署本署に設置され
た「望楼」、いわゆる「火の見櫓(やぐら)」
でした。周辺建物の高層化や一般家庭への電
話の普及とその役割を終え、現在、望楼が
残っている消防署は西淀川・生野・旭・阿倍野・
住之江の5署のみ。そんな「望楼」を巡り、
消防署の今と昔を探る連載企画「望楼探訪」。
今回は、住之江消防署をご紹介します。

望楼探訪

第4回 住之江消防署

望楼のある庁舎 「住之江消防署を訪ねて」

昭和49年に行われた住吉区の分区にと
もない、旧住吉消防署を引き継ぐ形で昭
和51年10月にスタートした住之江消防署。
その庁舎は昭和45年に竣工されたもので、
望楼に上ると、南港にもほど近い立地な
らではの見晴らしの良さが、まるで望楼
が街を見守っていた頃の名残のようにそ
こにありました。

会話が弾みました。「寒いし、夜は眠いし……
みたいだったんでしょか」「建物の中でも
寒いなんて、いわゆる火の見櫓だったらど
うだったんでしょね」「他の署の望楼から
管内の火災を先に見つけられたらいかん！
という意気込みで、みな目を凝らしたらし
いですよ」。それぞれに想像も交えて語られ
る昔話を伺いながら、かつては最前線であっ
た望楼に、しばし命が吹き込まれているよ
うな、そんな貴重なひと時でした。

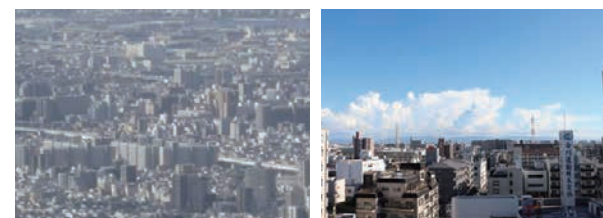
住之江消防署 松倉良友署長ってこんなひと

海に面した南の玄関口である住之江区
を守る、住之江消防署 松倉署長。消防人
生の半分以上を危険物規制事務に捧げて
きた、まさに危険物のスペシャリストで
す。そんな松倉署長のモットーは「職員同
士がお互いに何でも意見を言い合い、常
に新しいことにチャレンジできる職場環
境づくり」。署員全員が心を一つに、日々
業務に邁進しています。



松倉良友署長
大阪・関西万博キャラクター「ミャ
クミャク」と、住之江区のマスコット
キャラクター「さざびー」を手に。

住之江区御崎6丁目方面を望むと…



高所カメラ(あべのハルカス)

望楼からの眺め



住之江消防署
〒559-0013

大阪市住之江区御崎4-11-6 電話:06-6685-0119



功績概要

令和6年7月7日(日)16時30分頃、阿倍野区にある商業施設内で男性が意識を失った状態で発見される救急事案が発生しました。異変に気付いた通行人が119番通報を行い、警備員の赤松祐治さん、横山剛さん、南真美さんはAEDを持って現場に向かいました。3名は連携して胸骨圧迫及び人工呼吸を実施し、AEDの指示に従い4度の電気ショックを行いました。継続して胸骨圧迫を行ったところ、救急隊到着前に心拍が再開しました。

その後、救急隊が到着するまでの間、男性の観察を継続し、救急隊に引継ぎました。なお、この男性は後に意識が回復し、無事に社会復帰されています。今回、救命活動に従事した3名の勇気ある行動に敬意を表し、阿倍野消防署長から感謝状を贈呈させていただきました。

株式会社大丸松坂屋百貨店 大丸大阪・梅田店

大丸大阪・梅田店は昭和58年にオープンした、JR大阪駅橋上通路と直結する大型百貨店です。ショッピングの楽しさや日常使いの便利さを追求し、トレンドファッションやラグジュアリーなブランドから、手みやげとなる名物スイーツや惣菜などデパ地下も充実しています。



また、居心地のよい吹き抜けのあるカフェや多彩なジャンルのレストランに加えて、ジャパンプップカルチャーが充実しエンターテイメント性のある人気の大型ショッピングモンプも揃います。

また、北自衛消防協議会に平成8年に加入され、27年間という長きにわたり、北区の防火・防災意識の向上にもご尽力していただいております。

自衛消防隊紹介

自衛消防隊長 山田 員也

弊社では、開店前に消防訓練や防災訓練を実施し、また、消火器の実射訓練、急病人対応の救命講習なども行っております。これからも全従業員が、安全・安心に対して真摯に向き合い、ご来店いただいたお客様を笑顔でお迎えできるよう取り組んで参ります。



＼＃7119／ 救急安心センターおおさか だより

冬こそ注意が必要な「かくれ脱水」



冬の寒い季節になると、つい水分補給を怠りがちになります。気温が低いと汗をかく量も減り、喉の渇きを感じにくくなるため、水分補給を忘れてしまうことが多いからです。しかし、冬だからこそ「かくれ脱水」に注意が必要です。「かくれ脱水」とは、体の水分が減少して脱水症になる手前にもかかわらず、本人がそれに気づかず有効な対策がとれていない状態のことです。

冬は乾燥した空気が肌や粘膜から水分を奪いやすくなります。室内の暖房も乾燥を助長し、知らないうちに体内の水分が失われていることが多いです。「かくれ脱水」を防ぐためには、日常的に意識して水分を取ることが大切です。目安としては、一日に1.5～2リットルの水を摂るよう心掛けましょう。温かい飲み物やスープなどを取り入れるのも良い方法です。さらに、食事からも水分を摂取することができます。果物や野菜には多くの水分が含まれており、特にスープや煮物などの料理は体を温めながら水分補給ができるのでお勧めです。食事バランスを考えながら、自然に水分を取り入れる工夫をしてみましょう。

最後に、脱水のサインを見逃さないことも重要です。口の乾きや肌のかさつき、頭痛やめまいなどが現れたら、すぐに水分を補給するようにしましょう。冬でもしっかりと水分補給を心掛け、健康な生活を送りましょう。寒さに負けず、体の内側からケアすることで、冬を快適に過ごすことができます。脱水の症状やそれ以外でも、救急車を呼んだほうがいいのか？ 今すぐ病院に行ったほうがいいのか？ 近くの病院はどこ？ など迷ったときは、救急安心センターおおさか（＃7119または06-6582-7119）をご利用ください。



救急車を呼ぶか？ 病院に行くか？
＃7119または06-6582-7119
救急安心センターおおさか

救急安心センター着信件数(令和6年10月)

総着信件数(1日あたりの件数)	26,034件(約840件)
対前年同月比	220件減少

女性防火クラブだより

福島区

福島区女性防火クラブは、本郷和美委員長をはじめ2名の副委員長、各連合町会別の10支部で構成されており、「自分の家は自分で守る」「自分の地域の地域は自分たちで守る」を合言葉に活動しています。ご家庭で、またご近所の方々と一緒に、家庭からの失火や放火をなくすための広報や、おとしよりの方々への支援として実施している「ふれあい喫茶」「高齢者食事サービス」などの機会に、福島消防署と協働して、予防救急や防火・防災の普及啓発を行っています。



また自己啓発として、普通救命講習会や地震・地域防災等、防災等に関する研修会を開催し、阿倍野防災センターなどの防災関連施設見学会の開催にも積極的に取り組んでいます。

昨年度には10支部のうち2支部が地震・地域防災等の研修会に参加し、7支部が施設見学会に参加しました。今年度も精力的に自己及び地域の啓発に取り組み、ご家族の安全・安心の確保はもとより、地域コミュニティの発展に大きく貢献しています。